



# 子どもへの かかわり方 **5**つのポイント

## ポイント ① 家庭を安らぎの場所に

新しい環境の中で、子どもたちは想像以上に様々なことに取り組んでいます。元気そうに見えても、意外に疲れている時もあります。家庭でほっと一息ついてゆっくり安らぐことが、明日へのエネルギー源になります。

## ポイント ② 人間関係の基盤作りを

自立するためには、友人との結びつきを深め、互いに悩みを話し合ったり支え合ったりできる関係が大切です。家庭での何気ない日常会話や、一緒に何かを楽しむことなど、家族と心を通わせるかかわりを大切にしましょう。その中で、人に対する信頼感や人との交流の仕方を学ぶことが、友人関係作りの基盤になります。

## ポイント ③ 自立を促すかかわりを

自立した大人になるということは、「自分で選択し」「自分で決定し」「自分で行動したことに責任を取る」ことが、できるようになることです。自立のためには、保護者が口や手を出しすぎず、自分なりのペースで行動するまで待ち、少しずつお子さんに任せていくことが大切です。

## ポイント ④ 我慢する心とルールを守る心を 育てるかかわりを

学校でも家庭でも、「してはいけないこと」「許されないこと」「しなくてはならないこと」があります。まずは、「“やりたい気持ち”“やりたくない気持ち”はわかるよ」と、言葉で伝えてあげることが大切です。それから、「なぜしてはいけないのか」「許されないのか」「しなくてはならないのか」について話し合ってみましょう。そのようなやり取りを通して、我慢する心とルールを守る心が育っていきます。すぐにうまくいなくても、やろうとする気持ちや少しでもできていることを認め、根気強く話し合っていくことが大切です。

## ポイント ⑤ 温かく見守るかかわりを

思春期は、第二性徴が現れ、性差がよりはっきりし、体格の差も広がります。強い性衝動に戸惑ったり、ほかの子と比較して劣等感を抱いたりしがちです。体は大人びて、口では反抗的なことを言っている、「家族から愛されたい」「認められたい」「わかって欲しい」と思っているのも、この時期の特徴です。保護者が温かく見守ってくれることは、子どもにとって大きな支えになります。



# ヒントと10のヒント



## ヒント1

様々な変化が起こり、それに戸惑う時期でもあります。心も体も成長し、個性が育ってきているという受け止め方をしてあげましょう。子どものありのままを認めることばをかけてあげましょう。

## ヒント2

短時間であっても、1日1回は子どもの話に耳を傾けませんか。まずはいいに、子どもの話を聞いてみることがコツです。塾や習い事への送迎のときなどのちょっとした時間の何気ない会話を大事にすることも、子どもの世界を理解する機会になります。

## ヒント3

「〇〇したら」と助言する前に、まず子どもの感じていることや考えが分かるように、子どものペースに沿って話を聞いてみましょう。子どもはアドバイスを求めているというより、困ったことや嫌だったことを「話したい」「聞いてほしい」と思っている場合も多いものです。

## ヒント4

「親は忙しそうだから、…」と相談することをためらう子どももいます。「後でね」と言ったときには忘れずに、何らかの方法で働きかけてあげましょう。話しかけたら保護者は聞いてくれると、子どもが感じられるような関わりを心がけましょう。

## ヒント5

「悩み」は成長のあかしでもあることを伝えてあげましょう。「悩みをもってもおかしくないんだ」と安心して話せるようになることもあります。すぐに「悩み」を解決する魔法のような方法はあまりありません。それよりも、一緒に悩み、一緒に考えるということ自体が大切です。

## ヒント6

子どもはいろいろな可能性をもっています。子どもの好きなことや得意なことに目を向けてみましょう。子どもの興味関心や特技は将来につながる可能性があります。子ども自身が自分の個性を理解し、進路や将来像を明確にしていく手助けになるでしょう。

## ヒント7

子どものできないことに目を向けるよりも、うまくいっているところを見つけて、伝える言葉かけをしましょう。うまくいっているところを認めてもらうと、自信がもて、いろいろなことに取り組もうと、前向きな気持ちになれるものです。

## ヒント8

主語のあるきちんとした対話を心がけましょう。「〇〇は、そう思うんだ」「お父さん(お母さん)はこう考えるけど、どう思う？」などの言い方です。それは、子どもが自分を尊重されていると感じることにつながり、自分自身の考えをもった大人としての成長につながります。

## ヒント9

保護者の考えを伝えるだけの一方通行ではなくて、「あなたはどう」と一歩引いて子どもの話を聞いてみる「ゆとり」が大切です。時間はかかっても話し合うことで、子どもは「話してよかった」「また何かあったら相談しよう」と思えることでしょう。

## ヒント10

保護者自身が今を充実して過ごしている姿を見せましょう。「いきいきしていて素敵だな」「大人になるっていいな」という思いにつながるメッセージになります。保護者のみなさまも、自分のために使う時間をぜひ大切にしてください。